

上西早生(うえにしわせ)

登録番号：第1028号

育成者：上西嘉一

登録年月日：昭和61年7月11日

来歴：「松本早生富有」の一樹変異

登録者：上西嘉一

(奈良県吉野郡西吉野村湯川265)

特 性

■栽培特性

「松本早生富有」の一樹変異なので、果実以外の特性は「松本早生富有」とほぼ同じで樹勢は強い。幼木の間は直立性であるが、着花(果)すると開張・下垂してやや弱い樹勢になり、花芽が多く着生して樹勢が弱くなるという繰り返しになりやすい。また、結果母枝の先端嫩芽しか発芽して結果枝にならないので、側枝が長くなる傾向があり、着果すると側枝全体が柳状に下垂し果実の傷果や汚れを生じやすい。その対策としては、早めに側枝の更新や切返しをすることが大事であり、また、側枝や結果枝を誘引する栽培法(棚栽培)も考えられる。

花芽は「松本早生富有」より多く着生し、単為結果性が強く、整理的落果も少ない。10a当たり5～6本の受粉樹を混植すれば、ミツバチの自然受粉が結実も確保できるので、省力化が可能である。

■果実特性

果実は腰高の豊円形で、果皮が紅色に濃い発色となって、食味も含めて「富有」に似ていることが最大の特徴である。「富有」と異なる点は、熟期が原産地(奈良県吉野村)で10月10日頃と「松本早生富有」よりも1～2週間早く、種子形成力が弱いので、平均種子数1～2個で種子が入らなくとも果形の乱れが少ない事である。

果実は250g前後で「富有」と同じかやや大きく、若木の間は300g前後の大果が生産できる。果肉は橙々色をしていて褐斑も殆ど見られず緻密でよくしまっている。糖度は屈折計示度で15度以上と高く、多汁で甘味が強く食味は極上で「刀根早生」に匹敵するかそれ以上である。また、「伊豆」や「松本早生」などに見られる渋残りや食味不良も見られず、へた部まで全部食べられる品質極上の完全甘柿品種である。

■病虫害抵抗性

特に弱い病虫害は見られないが、樹が弱くなると落葉病にかかりやすいので、樹勢をやや強めに維持するような肥培管理をする。

■地域適応性

土壌やその他自然条件に対する適応性は広く、「松本早生富有」のできる地域であれば栽培可能である。ただ、「松本早生富有」の緑斑病に似た症状が果実に発生することがあるので、マンガン過剰地域などは避けて土質の深い地力のある土壌が適地と思われる。また、「松本早生富有」と同じく着色遅延も見られるので、日当たりと風通しの良い所が適地であろう。一方、側枝が柳状に下垂し、枝ずれによる傷果や果実の汚れが発生しやすいので、台風や風の強い所は避けるとともに、側枝のつり上げや早めの更新が必要である。この品種は10月に食べられる品種なので、「刀根早生」に続く甘柿の品種として位置づけ、「伊豆」や「松本早生富有」に代わる中生種としての品種構成を考えてよいと思われる。

(岩本和彦)